

# 平成 26 年度 事業計画

学校法人 神戸薬科大学  
理事長 雀部昌吾

我が国の大学を取り巻く環境の中に、18歳人口の減少という問題が大きく特徴づけられている。このような厳しい状況の中、本学が今後一層の発展を図るため、「キャンパス整備」と「大学広報の強化」を中心に、次の事業計画を立てることとする。

本学の理念を基に、社会に貢献できる人材育成を目的とし、今後の医療の進歩に対応できる高度な薬学の知識を身につけ、地域の医療に貢献できる薬剤師及び教育・研究者を養成するために、平成 27 年度入学者から新たにスタートする新カリキュラムを構築し、それを実行する教員組織の一層の充実を図る。特に低学年からの学力向上に力を注ぎ、薬剤師国家試験の高い合格率に直結できるようにする。また、学生支援の一環として企業、病院への就職支援を強化する。

「キャンパス整備」は、学生、教職員が安全で快適なキャンパスライフを送るため、また、受験生に対する本学の魅力を増大するためにも不可欠な事業である。7号館耐震補強工事をはじめとするキャンパスの整備を行うとともに、平成 26 年度から 4 か年計画で実行する本学の中心となる建物の改築・改修や耐震補強計画を具体的に検討する年度とする。

大学広報は、受験生、在学生、卒業生、保護者はもとより地域の人々への情報発信、また、他大学との教育・研究における連携、企業との研究における連携強化を目的とした情報発信のため極めて重要であり、平成 26 年度は「大学広報の強化」により、これらの連携の強化を目指す。更に、国際化に対応できる人材養成にむけ、総合的英語力強化の教育システムの充実を引き続き図る。

## 1. 教育環境整備

- (1)平成 27 年度入学者から新たにスタートする新カリキュラムを構築し、それを実行する教員組織の充実を図る。
- (2)新カリキュラムは、多職種連携や将来の進路を意識した履修計画を設定できるような神戸薬科大学の教育編成方針の特色をアピールできる内容にするとともに、低学年から各科目間の関連を意識したカリキュラムを作成し、教員間の連携も強化することで、薬剤師国家試験の高い合格率に直結できるようにする。
- (3)新カリキュラムの内容にある多職種連携教育について全学生を対象として実施するため、平成 27 年度実施に向けて、甲南女子大学と協定を締結、看護リハビリテーション学部と連携して、本学 1 年次生全員と甲南女子大学の看護学科、理学療法学科の 1 年次生を対象とする職種間連携を学ぶ合同授業を計画する。また、神戸大学とも連携教育のより一層の充実を図る。
- (4)平成 24 年度に採択された文部科学省私立大学教育研究活性化設備整備事業の取組「e-ラーニング教材利用による薬学生の総合的英語力向上」により導入した e-ラーニングシステムを積極的に活用し、目的の達成を図る。

- (5)平成 26 年度は、新たに TOEIC 受験費用を補助する。TOEIC での高成績を平成 26 年度から開講される「語学検定」の成績評価につなげるにより英語力の向上を図る。
- (6)今年度も昭和ボストン校の協力による 4、5 年次前期「海外薬学研修」を実施し、日米の医療制度や薬剤師業務の相違の見聞を通して、医療現場での国際的視野を涵養する。
- (7)神戸大学と大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムで実施していた「Student CASP ワークショップ(略称：CASP)」を新たに 5、6 年次の単位認定科目とし、受講学生の単位認定を可能とする。
- (8)新カリキュラム対応の教務システムの更新を行う。

## 2. 研究推進事業

- (1)知的財産ポリシーを制定するとともに、発明規程、発明委員会規程などの関連規程を整備し、本学の研究成果の社会での活用を図るとともに、企業等との共同研究を推進しやすい環境を整え、外部資金導入を促進し、研究の一層の活性化を図る。
- (2)大型機器 (NMR) を更新するとともに、大型機器充実資金の積立額を増大し、先進的研究に必要な大型機器を購入しやすくする。
- (3)平成 24 年度に採択された『私立大学戦略的研究基盤形成支援事業』の「疾患糖鎖生物学に基づく革新的治療薬の開発」の研究プロジェクトを引き続き実施する。
- (4)経常費補助金特別補助の『大学間連携等による共同研究』に申請し、共同研究の充実を図る。

## 3. キャンパス整備

- (1)キャンパス整備として新たに 4 か年計画をたて、平成 26 年度は 7 号館耐震補強工事、生駒池(通称：ベンゼン池)の散策路の整備、5 号館ホワイエの改修を順次行う。
- (2)平成 26 年度は、次年度以降のキャンパス整備実施計画策定のためキャンパス全体の改築・改修計画や学内施設の耐震補強計画を立案する年度とする。

## 4. 大学広報の強化

- (1)広報強化の一環として、広報委員会の役割と組織のあり方について検討する。
- (2)広報活動上重要な情報発信については、大学ホームページの全面的リニューアルも含めた対応を検討する。

## 5. 就職支援

- (1)企業と病院への就職をより強化するため、進路支援スタッフを充実させ情報収集を更に強固にし、これらの分野へより多数の学生を送り出すことを図る。
- (2)「就職ガイダンス」、「就職フェア」、「保護者のための就職ガイダンス」、「キャリアガイダンス」により、キャリアサポートの充実を引き続き図る。
- (3)「インターンシップ」を充実し、「キャリア教育講座」や「ビジネス・マナー講座」を有機的に企画し、キャリアサポートの強化を行う。
- (4)就職相談室を設置し、学生が気楽に就職相談できるようにする。
- (5)求人情報の閲覧を容易に行えるよう、学生支援センター内に学生専用のタブレット携帯機器を新たに設置する。

## 6. 入学試験制度

- (1)多様化した入学試験による入学者の学内試験成績の分析に基づき、平成 28 年度一般入試中期の受験科目のうち、化学と生物の選択受験から化学のみと変更する。
- (2)優秀な学生を選抜する入学試験制度の在り方について検討と分析を行い、薬学指向の質の高い入学者の確保に努める。

## 7. 生涯研修事業

- (1)平成 26 年度は、第 40 回卒後研修講座として「感染症をどう抑えこむかー予防と治療ー」をテーマに実施する。
- (2)リカレントセミナーでは、服薬指導シリーズ・各種疾患別病態・薬物治療と症例検討シリーズ・医薬品情報の活用の仕方シリーズ等、シリーズごとに講義や実習を交えた SGD を今年度も行う。また、健康食品講座、薬剤師実践塾では、より専門的、実践的な研修プログラムを実施する。
- (3)平成 24 年度に「在宅医療を支援する指導薬剤師養成プログラム」を新たな研修プログラムとして立ち上げ、在宅医療を推進している神戸市垂水区医師会と連携に関する協定を締結したことに基づき、在宅医療を担う臨床能力育成を図るプログラムを実施する。

## 8. 自己点検・評価

- (1) (公財)大学基準協会の第二期大学評価 (認証評価) を受審するため、自己点検・評価報告書の平成 27 年 3 月提出を目指し、学内関係部署に原稿作成を依頼し、編集作業を行う。
- (2) (一社)薬学教育評価機構が行う薬学教育評価についても、平成 28 年度を受審申請希望書を提出し、認証評価を受ける準備を行う。
- (3)各委員会、部署での自己点検・評価の実施結果及び平成 25 年 9 月に実施した学生実態・満足度調査の結果を基に、改善が必要な場合には、自己点検・評価委員会から関係する委員会及び部署に改善指示と報告を求め、委員会及び部署の活動の適正化を目指す。

## 9. その他

- (1) 6 号館 1 階防災備蓄倉庫の整備を行う。
- (2) 学校法人会計基準の改正に伴い、会計パッケージシステムの導入を行う。
- (3) 神戸薬科大学年史第三巻の発行を行う。